

## 関東地方における農家レストランの開業状況と運営状況

### The Opening Situation and the Operation Situation of The Farmer's Restaurant in Kanto Region

○齋藤 朱未\* 服部 俊宏\*\* 白木 絵理\*\*\*

○SAITO Akemi\* HATTORI Toshihiro\*\* SHIRAKI Eri\*\*\*

#### 1 はじめに

関東地方の農家レストランの事業体数は、平成 23 年から 24 年にかけて、190 件から 210 件と増加しており、年間総販売金額も 24 億円から 41 億円に増加傾向にある<sup>1)2)</sup>。農家レストランの開業状況と経営状況については、齋藤ら<sup>3)</sup>が東北地方における開業状況と運営状況について明らかとしているほか、立地との関係を指摘している<sup>4)</sup>。その結果から、農家レストランが収益確保を目指す場合には、集客が見込める場所での立地を目指すことが必要であり、地域住民の集いの場を目指す場合には、地域住民にとって利便性の良い場所での立地を目指すことが必要であると考えられる。関東地方は人口が集中している首都圏を含み、他地方に比べ農家レストランの集客が見込める立地であると想定され、収益確保を得るのに適した立地であると考えられる。

そこで、本研究ではすでに運営がなされている関東地方の農家レストランの現状を把握することを目的に、その開業と運営状況について明らかにすることとした。

#### 2 調査方法

調査は、2015 年 8 月～9 月に郵送によるアンケート調査により実施した。調査内容は、農家レストラン経営者の性別や年代といった属性について、開業動機、開業資金といった開業状況、そして具体的な運営状況として料理内容や予約の有無についてである。調査対象の農家レストランは（財）都市農山漁村交流活性化機構 HP や各都県の HP に掲載されている農家レストラン計 174 件とし、調査票への回答は現在の経営者をお願いした。調査票の回収は 60 件（回収率 34.5%）で、このうち分析に耐えうる 56 件を分析に用いることとした（有効回答率 32.2%）。

分析に用いた農家レストランの事業形態は個人経営 17 件、任意団体や有限会社といったグループ経営が 26 件であった（無回答 13 件）。農家レストラン経営者は男性が 36 件、女性が 18 件（無回答 2 件）で、その年代は 60 歳代が 52%と最も多いものの、30 歳代から 70 歳代と多様な年代が経営していることが明らかとなった。

#### 3 調査結果

##### 1) 開業状況

農家レストランの『開業動機（複数回答）』については、全体として「地域経済の活性化」が 30 件（16%）で最も多く、次いで「自家地元生産物の活用」が 28 件であった。複数回答された開業動機の中でも一番の動機については、最も多い回答が「自家地元生産物の活

---

\*同志社女子大学生活科学部 Department of Human Life Studies, Doshisha Women's College of Liberal Arts

\*\*明治大学農学部 School of Agriculture, MEIJI University

\*\*\*株式会社京急アドエンタープライズ KEIKYU AD ENTERPRISE

【キーワード】農家レストラン／開業状況／運営状況

表1 開業動機

	複数回答		一番の動機	
	件数	%	件数	%
自分の資格技術の活用	6件	10.7%	3件	5.4%
副収入の確保	7件	12.5%	1件	1.8%
生産物の販売路の拡大	10件	17.9%	2件	3.6%
自家地元生産物の活用	28件	50.0%	11件	19.6%
安心安全な食の提供	22件	39.3%	1件	1.8%
郷土の食文化の伝承	14件	25.0%	0件	0.0%
地域経済の活性化	30件	53.6%	11件	19.6%
楽しめる場の確保	17件	30.4%	2件	3.6%
働く場の確保	23件	41.1%	1件	1.8%
産直が出来るようになった	14件	25.0%	8件	14.3%
地域レストランの運営を任された	6件	10.7%	3件	5.4%
講座・新聞記事に触発された	1件	1.8%	0件	0.0%
家族に推された	1件	1.8%	1件	1.8%
周囲に推された	5件	8.9%	1件	1.8%

用」と「地域経済の活性化」で共に11件であった。

開業時に必要とした『開業資金の規模』は「1,000万円以上」が37%と最も多く、「500万円以上」だと半数以上の農家レストランが該当していた。

## 2) 運営状況

『予約の有無』について「完全予約制」、一部の料理や時間帯によって、大人数での利用、ペット連れの場合は予約が必要な「一部予約制」、「予約なし」の3つに区分すると、最も多いものは「予約なし」で38件であり、「完全予約制」とするものは3件のみであった。

これらの農家レストランで実際に提供している『料理内容』について、メニュー表等から3つに区分した。自家地場産農産物を活かした主菜・副菜・ごはん・汁物等からなるメニューを構成している「定食型料理」、自家製のそばやうどんをメインで扱うものを「そば・うどん型料理」とした。さらに、定食料理以外にもカレーライスやラーメン等の麺類、丼ものなど多目的な料理を扱い、ドライブイン等でよく見られるような誰でも食べられる大衆型のメニュー構成を有しているものを「ドライブイン型料理」とした。その結果、関東地方の農家レストランにおいては「そば・うどん型料理」が28件と全体の50%を占めており、「定食型料理」と「ドライブイン型」はそれぞれ全体の1/4となっていた。定食型料理のなかでも地域の伝統料理を提供している農家レストランは少なく、地元の生産物に特化した料理を提供する農家レストランが多く存在した。

また、これらの農家レストラン『年間利用者数』（延べ）は「1,001～3,000人」、「3万～5万人」がそれぞれ12件（22%）で、利用者が1万人を超える農家レストランは全体の30%程であった。

- 1) 関東農政局平成23年度6次産業化総合調査結果
- 2) 関東農政局平成24年度6次産業化総合調査結果
- 3) 齋藤朱未・藤崎浩幸（2010）『個人経営の農家レストラン開業状況と経営者性別による相違 -東北地方を対象として-』農村計画学会誌29巻論文特集号197-202
- 4) 齋藤朱未・藤崎浩幸（2011）『立地状況からみた個別経営型農家レストラン -東北地方を対象として-』農村計画学会誌30巻論文特集号297-302